

第4章 自分らしくいきいきとした生活をめざして



1 高齢者福祉サービスの充実

(1) 在宅福祉サービスの充実

①外出支援サービス（移送サービス）

<取り組み>

要介護者等の増加に比例して、車の運転をしなくなる高齢者も増加することが予想されます。今後も外出支援サービス利用者に対し、自らの意思で自由に行動し、いきいきとした豊かな高齢期を送るために、運転協力員や送迎体制の確保・強化に努めます。また、事業の啓発・広報により、事業についての住民への周知に努めていきながら、その効果的な周知方法も検討していきます。

<実績・見込み>

ハンディキャブ（車いす用リフト付き自動車）の貸出

	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用延人数	計画	40	40	40
	実績	26	55	5

移送サービス

	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用延人数	計画	50	50	50
	実績	104	127	42

令和5年度は7月末現在

【実績の評価・課題】

ケアマネージャーなどの関係機関や相談業務からの紹介で利用人数は増加しています。利用者は身体障がい者よりも要支援1・2、要介護1の認定を受けている方の登録が多いです。公共交通機関や町内の医療機関の少なさもあり、今後も需要は増えていくと思われれます。

しかし、ハンディキャブの貸出に使用している車両は購入から20年が経過しており、定期的に点検に出しているが不具合も生じてきています。年式が古いため交換部品も無く、車両の入れ替えに係る費用確保が懸念されます。

また、移送サービスにおいては定年延長、再雇用の推進を図る国の動きもあって運転協力員の確保が喫緊の課題です。現状、今以上に需要が増える場合は依頼に対応することが困難な状況にあります。

②家族介護者支援手当等

<取り組み>

在宅介護を支援するため、家族介護者支援手当の支給を今後も実施します。

<実績・見込み>

ア 家族介護者支援手当

	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
支給対象者	計画	18	18	18
支給額		2,520,000	2,520,000	2,520,000

支給対象者	実績	13	16	10
支給額		1,575,000	1,890,000	420,000

令和5年度は7月末現在

【実績の評価・課題】

月15,000円の支援を行うことにより、要介護5認定者の在宅介護における家族の経済的負担の軽減に今後も努めます。

施設入退所・医療入退院等による受給資格の有無については速やかな確認が必要です。

③家事援助サービス（はとやまふれあい在宅サービス）

＜取り組み＞

サービスを必要とする高齢者の自立した日常生活を支援するため、地域の人々の協力のもと、今後も継続して実施します。なお、外出の支援等、高齢化の進展とともに高まるニーズに対応すべく担い手の確保や制度の一部改正を実施します。

＜実績・見込み＞

	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用延回数	計画	2,300	2,500	2,600
利用延時間		2,520	2,720	2,820
利用延回数	実績	1,552	1,772	530
利用延時間		1,744	1,815	541.5

令和5年度は6月末現在

【実績の評価・課題】

コロナによる緊急事態宣言中は、お掃除やお話し相手は休止し、生活に必要な買物、ゴミ出し、病院付添の支援のみを実施します。そのため、令和3年度の実績はコロナ前に比べると、利用頻度や時間が減少していますが、コロナ禍の中、すべてを中止にすることなく、協力会員の了解を得て、支援することができました。

今後の課題としては、増加していくニーズに対する担い手の育成が急務です。

④配食サービス事業

＜今後の取り組み＞

高齢者に栄養のバランスのとれた食べやすい食事を提供するとともに、利用者の見守り等による安否確認を継続して実施していきます。

また、今後も配食事業を継続するために、対象となる方の要件を再検討して、事業の適正利用を促進していきます。

＜実績・見込み＞

	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用実人数	計画	30	30	40
利用延配食数		6,000	6,000	8,000
利用実人数	実績	35	34	17
利用延配食数		2,524	2,262	707

令和5年度は7月末現在

【実績の評価・課題】

安否確認や見守りにおいて効果をあげることができたものの、利用者数、延配食数のいずれにおいても目標数値を大幅に下回る結果となりました。

必要とされている方が適切にご利用いただけるよう、事業内容の再検討に併せて、周知を図っていきます。

⑤ふれあい会食会

<取り組み>

高齢者向けの会食会については、地域内のボランティア団体等により実施ができるように側面的な支援を行い、社協が直接開催する「ふれあい会食会」事業は令和元年度末で終了としました。

⑥緊急通報システム

<取り組み>

在宅での日常生活における不安を解消し、生活の安全を守るために今後も継続して実施します。また、引き続き民生委員を介した対象者の把握やPRに努めます。

<実績・見込み>

	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用実人数	計画	55	55	55
	実績	58	50	54

令和5年度は7月末現在

【実績の評価・課題】

設置した機器を介して在宅高齢者の見守り及び安否確認を行うことができました。民生委員・児童委員を介して制度の周知を行っているほか、ケアマネージャーからの制度案内や介護に関する相談を受けた中で必要と思われる方へ案内するなど、引き続き対象者の把握に努めます。

また、現在は固定電話のみに設置可能な機器を利用していますが、固定電話を持たず携帯電話のみを利用している方も見守りが可能となるよう、ニーズを把握し、適切に対応していくことが必要となります。

⑦認知症検診

<取り組み>

認知症は早期発見及び早期治療によって、進行の遅延を図ることができます。潜在化する認知症予備群である方を如何に治療につなげることができるかが、認知症の方が住み慣れた地域で暮らす上で非常に重要となります。そのため、70歳及び75歳到達の高齢者を対象に個別検診による認知症検診を実施して、認知症予防等の視点からの施策の充実を図ります。対象年齢及び健診機関の拡充を検討し、高齢者に対し幅広く認知症健診の機会を提供し認知症の予防に努めます。

<実績・見込み>

	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
認知症検診	70歳	37人(11.5%)	43人(14.1%)	13人(3.2%)
	75歳	43人(15.8%)	62人(14.8%)	41人(16.6%)
	合計	80人(13.5%)	105人(14.5%)	54人(8.3%)

令和5年度は7月末現在

【実績の評価・課題】

新型コロナウイルス感染症の影響で医療機関の受診を控える傾向があり、受診者は減少傾向でしたが、事業の際に早期発見の必要性について周知し、受診率を高めることが課題です。

(2) 施設福祉サービスの充実

①総合福祉センター

＜取り組み＞

総合福祉センターは、高齢者の健康増進、教養の向上等を目的とし、高齢者に広く開放されていますが、個別施設管理計画の策定を進め、大規模改修(修繕)等と施設の管理形態や運用方針等を検討していきます。

＜実績・見込み＞ 総合福祉センター 利用状況

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用者数	6264人	7539人	2648人
開館日数	242日	243日	82日
1日平均利用者数	25.8人	31人	32.2人

令和5年度は7月末現在

【実績の評価・課題】

新型コロナウイルスによる閉館などがなかったことから、利用者数も回復傾向にあり、施設を活用した各種の事業、講座などにより健康増進、教養の向上のほか、交流の場としても効果を上げることができました。

②鳩ヶ丘のびのびプラザ

＜今後の取り組み＞

高齢者が利用しやすい環境の整備に努め、高齢者が自主的に各種教室を開くことができるよう新型コロナウイルス感染予防対策を講じた上で、更なる利用の促進を図ります。

＜実績・見込み＞のびのびプラザ 利用状況

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用者数	3,865人	5,216人	1,929人
開館日数	268日	293日	95日
1日平均利用者数	14.4人	17.8人	20.3人

令和5年度は7月末現在

【実績の評価・課題】

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として日曜日を休館とし、さらに1部屋あたりの利用者数を制限して開館しました。また、料理教室等の飲食を伴う教室については開催を見送っていましたが、利用者数は回復傾向にあり、施設を利用する高齢者の健康増進・交流を図ることができました。

令和5年度については日曜日の閉館は継続しているものの、利用者数制限を撤廃するほか、飲食を可能とする等、感染症流行の動向を踏まえた開館方法により前年と比較す

ると利用者数が増加しており、今後も継続して高齢者の健康増進・交流・居場所づくりの場として環境の整備をしていきます。

③多世代活動交流センター（健康づくりトレーニング室）

＜取り組み＞

十分な新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を行い実施していくとともに、教室修了後にトレーニングを継続できる体制の整備に努めます。

＜実績・見込み＞

	令和3年度	令和4年度	令和5年度(見込み)
教室参加者数	コロナにより中止	20	20
自主活動グループ数	—	1	—

令和5年度は7月末現在

【実績の評価・課題】

- ・トレーニング事業を開始して15年が経過し、令和5年7月末時点では自主活動グループ数も12組となり約170名がトレーニングを継続しています。
- ・新型コロナウイルスワクチン接種の影響による活動自粛期間が長く、自主活動グループの方々の体力及び筋力の低下が懸念されましたが、現在は精力的にトレーニングに励まれています。
- ・令和5年度は、トレーニング教室参加者を含む成人町民を対象とした体力・筋力測定を強化し、自身の現状を数値で把握することで、今後、より効果的な健康づくりに繋げていけるよう支援していきます。

④サービス付き高齢者向け住宅

＜取り組み＞

本計画期間内の町内へのサービス付き高齢者向け住宅の設置にあたっては、町内に87戸整備されていることから、今後は町内の高齢者の入居希望及び介護保険サービス事業への影響等を勘案し整備することとします。

また、入居者の安全を確保するため、埼玉県有料老人ホーム設置運営指導指針等に基づき埼玉県と連携して指導等を行います。

⑤有料老人ホーム

＜取り組み＞

本計画期間内の町内への有料老人ホームの設置にあたっては、町内にサービス付き高齢者向け住宅が87戸整備されていることから、今後は町内の高齢者の入居希望及び介護保険サービス事業への影響等を勘案し整備することとします。

また、入居者の安全を確保するため、埼玉県有料老人ホーム設置運営指導指針等に基づき埼玉県と連携して指導等を行います。

⑥ケアハウス

＜取り組み＞

近隣市町との調整を図りながら入所措置を円滑に進めるとともに、必要な入所定員の確保についても、県など関係機関と連携して広域的な対応を検討していきます。

⑦養護老人ホーム

<取り組み>

養護老人ホーム利用は、老人福祉法に基づき、居宅において養護を受けることが困難な高齢者を、入所措置し、福祉の増進を図る事業です。

町内に施設がないため、近隣市町との調整を図りながら入所措置を円滑に進めるとともに、必要な入所定員の確保についても広域的な対応を検討していきます。

また、地域ケア会議、民生委員・児童委員との連絡を緊密にし、虐待等の案件が出た場合には、速やかに対処できるように努めます。

<実績・見込み>

	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用者数	計画	1人	1人	1人
	実績	1人	1人	0人

令和5年度は7月末現在

【実績の評価・課題】

入所措置における養護老人ホーム利用は、平成16年2月から平成4年6月末まで入所措置者に対し事業を実施しました。

令和4年1月に養護老人ホームの対象者が、高齢で認知症もかなり進んだことから自己判断能力が十分ではないために成年後見人がつくこととなりました。その後、令和4年6月30日特別養護老人ホームに入所に伴い、措置解除となり、養護老人ホームの利用者は0人になりました。

今後の見込みとして、現時点では措置者はありませんが、必要に応じて入所調整を行っていきます。

⑧生活支援ハウス（高齢者生活福祉センター）

<今後の取り組み>

近隣市町との調整を図りながら入所措置を円滑に進めるとともに、必要な入所定員の確保についても広域的な対応を検討していきます。

2 高齢者の生きがいのづくりの充実

すべての町民が地域の一員として、健康で生きがいをもった生活を送るためには、住み慣れた地域でいきいきとした生活を送ることができる地域社会をつくる必要があります。そのため、高齢者がこれまで培ってきた豊かな経験と知識を地域活動などに活かすことができるよう、高齢者の生きがいのづくりや社会参加の仕組みづくりが必要です。高齢者が余暇時間を利用して、住み慣れた地域で積極的に社会参加活動を行っていくことが大切です。

今後、自治会等の活動を基盤とした既存のコミュニティを再構築していくことはもとより、NPO、ボランティア団体、民間事業者等の地域の様々な活動主体と協力しながら、鳩山町総合計画でめざす将来像の「高年者が輝き、みんなが主役として活躍するまち」の実現をめざします。

(1) 自主的活動・地域交流の促進

①老人クラブ

<取り組み>

今後も引き続き関係課及び社会福祉協議会等と協力のもと高齢者に対する生涯学習の機会を提供し、生涯学習活動への積極的な参加を促します。なお、今後も老人クラブ活動への支援を行い、活動の活性化を図ります。

<実績・見込み>

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
クラブ数	15	15	15
会員数	727	683	615

令和5年度は5月末現在

【実績の評価・課題】

老人クラブは、高齢者の生きがいのづくりや健康づくりのために多様な社会活動を通じて、高齢者の生活を豊かなものとするとともに、明るい長寿社会の実現と保健福祉の向上を図るためにあります。

町内の老人クラブでは、スポーツ活動としてゲートボールやグランドゴルフ、社会奉仕活動として公園の草刈り、資源回収、花壇の花植えや手入れ、空き缶拾い、神社の清掃、友愛訪問活動として会員のお宅を訪問するなどしての安否確認等、多種多様な活動を行いました。高齢者が参加、集い、会話できる場などの居場所づくり、会員相互の関係づくり、健康づくり、そして何より、生きがいをもてる活動が大きな効果を果たしています。

一方、会員の高齢化が進み、新しいクラブ会員の勧誘活動をしても、なかなか会員数が増えず、会員数の減少が進んでいること、役員の引き受け手がないといった課題もあります。

(2) 生涯学習活動の推進

①寿大学の開催

①いきいき寿大学（旧名称 寿大学）の開催

<取り組み>

多くの高齢者に、各種講座へ参加してもらうため、開講予定や講座内容、催事報告などを広く町民に広報し、参加を呼びかけていきます。

また、高齢者の価値観や趣向に合わせたさまざまな講座の開催を、感染症対策を講じた上で実施していきます。

<実績・見込>

令和3年度		令和4年度		令和5年度（見込み）	
新型コロナウイルス感染症を考慮し中止		新型コロナウイルス感染症を考慮し中止		いきいき寿大学 スマホ操作教室	180
				(1日3コース×全5日) ※10月開催	
合計延人数		合計延人数		合計延人数	180

令和5年度は8月末現在

【実績の評価・課題】

新型コロナウイルス感染症の影響で事業が実施できませんでした。令和5年度からは、全町民（高齢者）を対象とした事業を展開を検討しています。

(3) スポーツ・レクリエーション活動の充実

<取り組み>

高齢者のスポーツ活動を支援するとともに、高齢者がさまざまなスポーツ・レクリエーション等に親しむ機会の拡大に努めます。また、広報紙等を通じて行事開催の案内や開催内容を紹介します。

<実績・見込>

令和3年度		令和4年度		令和5年度（見込み）	
町民グラウンド・ゴルフ大会（個人戦）	170	町民グラウンド・ゴルフ大会（個人戦）	中止	町民グラウンド・ゴルフ大会（個人戦）	170
町民グラウンド・ゴルフ大会（団体戦）	中止	町民グラウンド・ゴルフ大会（団体戦）	174	町民グラウンド・ゴルフ大会（団体戦）	170
合計延人数	170	合計延人数	174	合計延人数	340

令和5年度は8月末現在

【実績の評価・課題】

毎年、同じ種目ではありましたが、スポーツを親しむ機会はわずかではありますが提供できました。

より多くの町民がスポーツに触れる機会を持てるよう、新たな種目の導入も検討します。

(4) 高齢者の就労活動支援

<取り組み>

本町において、高齢者の割合は年々増加していますが、高齢者の就労の場を提供するためにも、シルバー人材センターの重要性がさらに増しています。今後もシルバー人材センターで、就労先のニーズにあった技術の習得を図り、より多くの高齢者の就労の機会の確保を図り、高齢者の社会参加による生きがいがいづくりと活力の維持・拡大に努めます。

<実績・見込み>

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
登録者数	206	212	205
就労実人数	189	211	181

令和5年度は7月末現在

【実績の評価・課題】

近年、高齢化が進み、高齢者の方々が長年培ってきた知識・経験・技能等を活用して社会に貢献したいと望んでいる方が増えていますが、景気の後退に伴い、高齢者の就業機会は少なくなっている状況です。

町では、生きがいつくりの充実と社会参加の促進を図り、活力ある地域社会づくりに寄与する公益社団法人鳩山町シルバー人材センターに対し、補助金を交付し、高齢者の就労機会の確保を支援しています。

シルバー人材センターでは、令和3年度は、新型コロナウイルスの感染による影響により事業を縮小せざるを得ない状況であり、令和4年度は、新型コロナの影響も落ち着き、事業もやや回復傾向となり、登録者、就労実人数も微増となりました。

しかしながら、会員の高齢化もすすんで退会者の抑制もままならず、会員の増加は喫緊の課題となっています。